

文=五月女善重
(五月女総合プロダクト)

アスリートになれない

ゴルフ雑誌の取材で、著名なライターKさん、人気漫画家Tさんたちと合流し、地元のコースをご案内しました。回り始めてすぐに、ライターKさん・漫画家Tさんが、とても年長者に思えることに気付きました。お二人は僕と同じ40代で、歳はさほど変わらないのですが、遠い存在に感じるのでした。

『なぜだろう?』

僕は無意識に観察を始めました。

お二人とも場を盛り上げる天才で、小

「何を意識して、どこを向いている」という気負いを感じないのでした。

僕は縁あって二代目社長におさまっていますが、彼らは資本も持たず、他人の助けも借りず、一人で仕事をしています。そう考えると、お二人とも「意識の先」は常に自分自身にあるように思えたのです。自分の身体のコンディションひとつで収入も変わるはずで、自由とリスクの表裏

一体の中、二十余年も第一線で活躍してきたという、アスリートにも似た強靭な精神力に僕は圧倒されてしまったのです。

サラリーマン社会にも一匹狼を気取っている人がいますが、実際は会社から給料をもらっているわけですから、単に組織に迎合する気のない人物でしかありません。ですから尚更、お二人の孤高な姿が「真の一匹狼」に思えたのです。

営業本部長だった30代前半のころ、僕は業務の一切合財を抱え込んでいました。未熟な組織で制度もお粗末でしたから、現場からの不平、

本部への不満など、あらゆる愚痴が僕を集中砲火します。制度が整っ

ていれば「制度が人をフォロー」してくれませんが、一昔前の業界は推して知るべし。制度

の不備は、上長がフォローしなければ人は長く勤まりません。ですから一時期の僕は寝ずに現場の仕事をし、時間を見つけてはスタッフをなだめすかす事に終始していました。しかしフォローをし過ぎると、中には過剰な要求をする社員も出てきます。次第に僕は追い込まれ、「こんなことばかり、もうイヤだー」と叫びたくなりました。

異変を察した先輩が、僕を若手経営者が集まる会に誘ってくれました。そこで同じような立場の方々に出会い、悩みを共有することで、自分の危機を乗り越えることができたのです。

『なんだかんだ言っても僕は、いろんな人に助けられて仕事をしているのだ』

考えこんでいると、馴染みのキャデイさんが、中村玉緒似の笑顔で「ホラ、おぼっちゃんはコッチ!」と指さします。

照れ笑いで返し、人生の先達に促されるように、僕はまた歩き始めたのです。A]



さおとめ・よししげ

五月女総合プロダクト株式会社代表取締役社長。大学卒業後、父親の営む建築資材会社を経て、26歳でホール業界に。釘調整など現場仕事を経験する中で「自分の代になる」という強い意思のもと2000年に屋号をライブガーデンに変更、2003年代表取締役就任。「スタッフが主役の会社づくり」を掲げ、栃木県南部を中心に現在9店舗を経営。1965年生まれ。筆者へのメッセージはホームページから <http://www.saotomesp.jp/>